

高松市・香川町合併協議会

第 1 回会議

参考資料

参 考 資 料 目 次

資料 1	市町村の合併の特例に関する法律の概要 -----	1
資料 2	市町合併の手續の概要 -----	5
資料 3	新設合併と編入合併の比較 -----	6
資料 4	高松市・香川町の主なデータ等 -----	7
資料 5	高松市・香川町合併協議会設置の経緯 -----	8

市町村の合併の特例に関する法律の概要

(昭和40年3月29日法律第6号)

(総務省ホームページから)

(平成17年3月31日までに行われた市町村の合併について適用)

1 趣 旨 (第1条)

市町村行政の広域化の要請に対処し、自主的な市町村の合併を推進し、あわせて合併市町村の建設に資することを目的とする。

2 合併協議会 (第3条)

合併をしようとする市町村は、合併の是非を含め、市町村建設計画の作成やその他合併に関する協議を行うための協議会を設置する。

合併協議会の会長及び委員は、関係市町村の議会の議員、長、その他の職員、学識経験者の中から選任する。このほか、委員については、請求代表者又は同一請求代表者を加えることができる。

3 住民発議制度 (第4条、第4条の2)

有権者の50分の1以上の者の署名をもって、市町村長に対して、合併協議会の設置の請求を行うことができる。

全ての関係市町村で同一内容の請求が行われた場合には、全ての関係市町村長は、合併協議会設置協議について、議会にその意見を付して付議しなければならない。

合併協議会設置協議についての議会審議においては、請求を行った代表者は意見を述べる機会を与えられなければならない。

議会の審議において合併協議会設置協議が否決された場合には、市町村長による請求又はこれがなかった場合における有権者の6分の1以上の署名による請求により、合併協議会設置協議について、選挙人の投票に付するよう請求することができる。住民投票により有効投票総数の過半数の賛成があったときは、議会の議決があったものとみなす。

4 市町村建設計画 (第5条)

合併市町村がハード・ソフト両面の施策を総合的かつ効果的に推進するため、合併市町村、都道府県が実施する事業等を内容とする計画を作成する。

また、合併市町村は、あらかじめ都道府県知事に協議し、議会の議決を経て、計画を変更することができる。

なお、住民発議により設置された合併協議会においては、市町村建設計画の作成等の状況を、合併協議会の設置の日から6ヶ月以内に請求代表者に通知するとともに、公表しなければならない。

5 市となるべき要件の特例 (第5条の2、第5条の3、附則第2条の2)

平成16年3月31日までに、合併する場合に限り、市制施行のための要件を、人口3万人以上とするとともに、連たん要件等の人口以外の要

件を不要とする。

平成16年4月1日から平成17年3月31日までに、合併する場合に限り、市制施行のための人口に関する要件は、4万人以上とする（連たん要件等の人口以外の要件は必要）。

なお、市の全域を含む区域をもって平成17年3月31日までに行われる新設合併にあっては、市制施行のための要件をいずれか備えていない場合でも備えているものとみなす。

6 **地域審議会**（第5条の4）

合併前の関係市町村の協議により、旧市町村の区域ごとに、合併市町村の長の諮問により審議又は必要な事項につき意見を述べる審議会（地域審議会）を置くことができる。

7 **議会の議員の定数・在任に関する特例**（第6条、第7条）

(1) 新設合併の場合

1) 定数特例を活用する場合（設置選挙を実施）

合併市町村の議員定数の2倍まで定数増（最初の任期）

2) 在任特例を活用する場合

合併前の議員が2年までの期間在任が可能

(2) 編入合併の場合

1) 定数特例を活用する場合（増員選挙を実施）

増員選挙及び次の一般選挙による議員の任期まで定数増が可能

定数増： $(\text{編入先の旧定数}) \times (\text{被編入の旧人口}) /$

(編入先の旧人口)

増員選挙による任期：編入先の市町村の議員の残任期間

2) 在任特例を活用する場合

編入先の議員の任期まで在任が可能

さらに次の一般選挙による議員の任期まで定数増が可能

8 **市町村の議会の議員の退職年金に関する特例**（第7条の2）

関係市町村の議会の議員のうち、合併がなければ退職年金の在職期間の要件（在職12年以上）を満たすこととなる者は、当該要件を満たしているものとみなす。

9 **農業委員会の委員の任期等に関する特例**（第8条）

選挙による委員は、一定数以内、一定期間に限り、引き続き在任することができる。

10 **職員の身分の取扱い**（第9条）

一般職の職員が引き続き職員の身分を保有するようにし、また公正に取り扱わなければならない。

11 **一部事務組合等に関する特例**（第9条の2）

一部事務組合又は広域連合の構成団体のうち一団体以外のすべての市町村が、新設合併又は編入されることにより廃止される場合には、関係地方公共団体の協議による規約の改正等によって、合併後も当該一部事務組合又は広域連合が存続することができる。

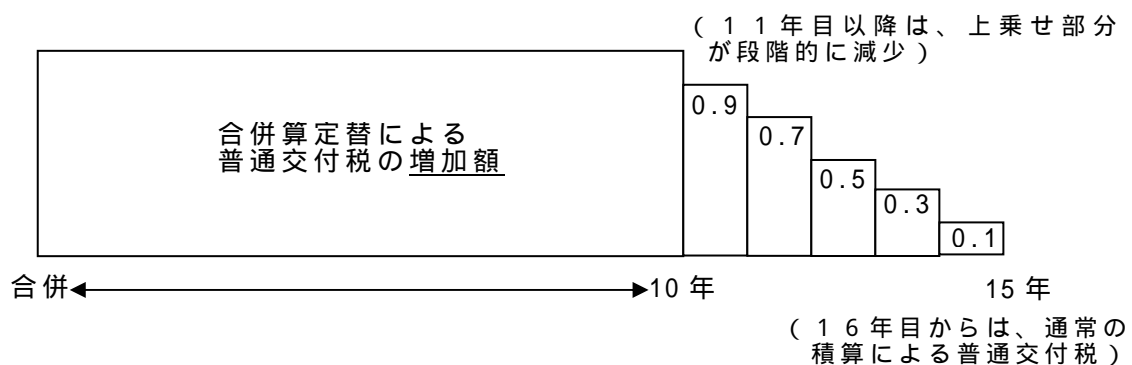
1.2 **地方税に関する特例**（第10条）

合併が行われた日の属する年度及びこれに続く5年度に限り、課税をしないこと又は不均一の課税をすることができる。

合併により新たに人口30万人以上の市となった場合における当該市に対する事業所税の課税団体の指定は合併の日から起算して5年間に行わないものとする。ただし、合併市の人口が、30万人を合併関係市町村の人口のうち最も多いもので除して得た数値に、合併市町村の人口を乗じて得た人口以上となった場合はこの限りでないものとする。

1.3 **地方交付税の額の算定の特例**（第11条）

合併が行われた日の属する年度及びこれに続く10年度について、合併関係市町村が合併しなかった場合と同様に算定し、その後5年度については段階的に増加額を縮減する。



1.4 **地方債の特例等**（第11条の2）

(1) 市町村建設計画に基づく次の事業又は基金の積立てで特に必要と認められるものは、合併が行われた日の属する年度及びこれに続く10年度に限り、地方債を充当でき、元利償還金の一部は、基準財政需要額に算入する。

- 1) 一体性の速やかな確立・均衡のある発展のための公共的施設の整備事業等
- 2) 地域住民の連帯の強化・旧市町村の区域の地域振興等のための基金の積立て

(2) 「市町村建設計画」を達成するための事業に要する経費に充当する地方債について特別の配慮をする。

1.5 **災害復旧事業費の国庫負担等の特例**（第13条）

災害等に対する国の財政援助につき、合併市町村が不利益とならないようにする。

1.6 **流域下水道に関する特例**（第14条）

流域下水道の関係市町村が、合併により一の市町村となった場合、都道府県と関係市町村の協議により、合併の日から起算して10年を経過する日の属する年度の末日までの範囲で当該協議で定める期間に限り、当該下水道を流域下水道とみなし、下水道法の規定を適用する。

1.7 **都道府県の議会の議員の選挙区に関する特例**（第15条）

一定期間に限り、従前の選挙区によるか、または合併市町村が従前に属していた郡市の区域を合わせて一選挙区を設けることができる。

18 **国、都道府県等の協力等**（第16条）

(1) 国の役割

- 1) 都道府県及び市町村の自主的合併に関する助言、情報の提供等を実施
- 2) 合併市町村の建設に資するため必要な財政上の措置その他の措置

(2) 都道府県の責務

- 1) 市町村の自主的合併に関する助言、情報の提供等を実施
- 2) 市町村の求めに応じた市町村相互間の必要な調整
- 3) 市町村建設計画の達成のための事業の実施その他の必要な措置

19 **合併協議会設置の勧告**（第16条の2）

都道府県知事が公益上必要と認める場合に、関係市町村に対し合併協議会の設置の勧告をする場合には、あらかじめ関係市町村の意見を聴くとともに、勧告した場合には、その旨を公表しなければならない。

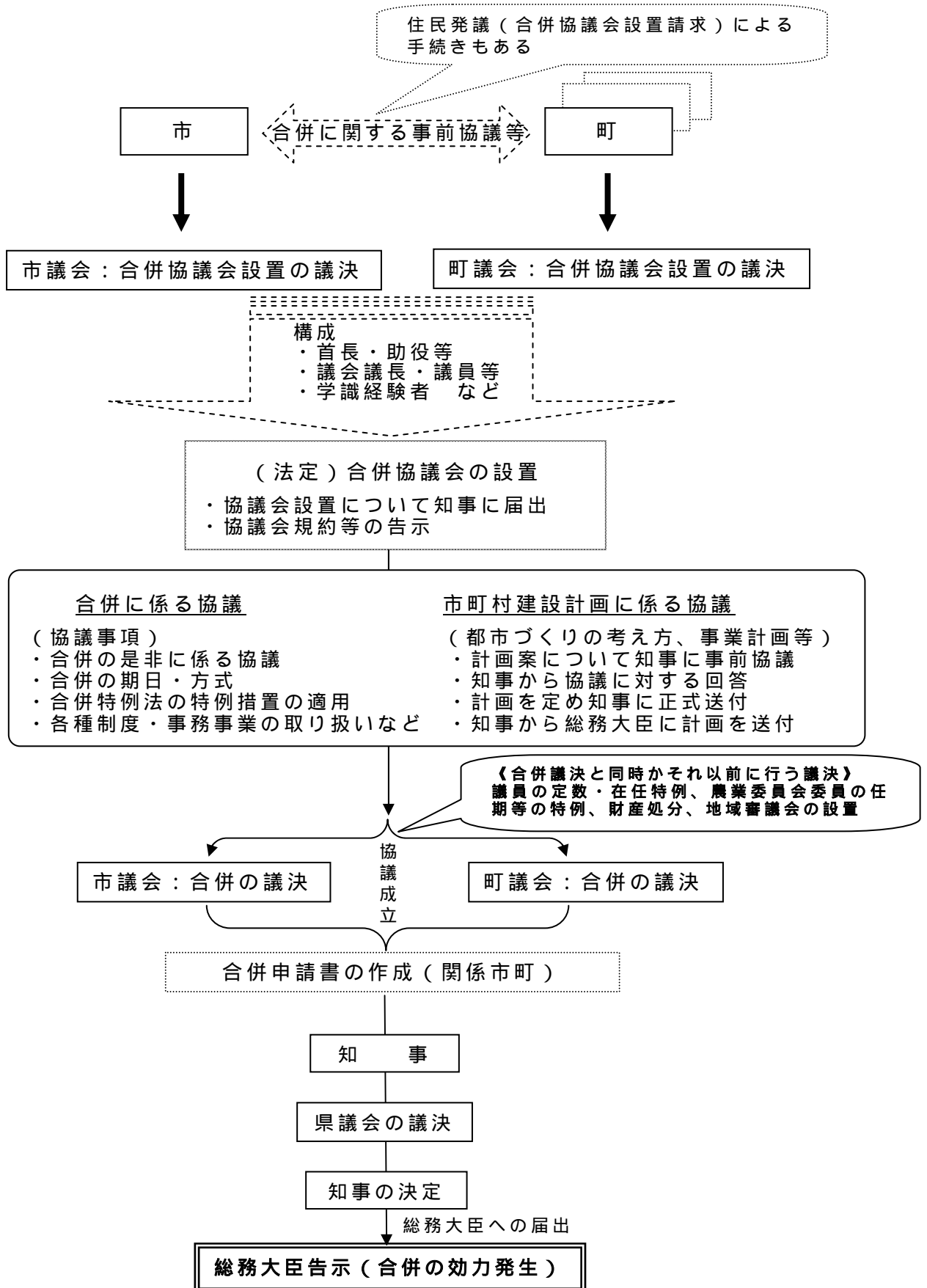
20 **特別区に関する特例**（第17条）

この法律の規定は、地方交付税の額の算定に関する規定（第11条及び第11条の2第2項）を除き、特別区にも適用される。

21 **罰則**（第18条、第19条）

合併協議会の設置の直接請求における署名の収集については、署名に関する自由妨害、署名の偽造、署名数の増減、関係書類の抑留・毀損・奪取、違法な氏名代筆行為、違法な手続による署名収集を行った者に対して罰則が適用され、署名の効力を市町村選挙管理委員会において決定する場合には、出頭・証言の拒否、虚偽の陳述を行った者に対して罰則が適用される。

市町合併の手続の概要



新設合併と編入合併の比較

項目		新設合併	編入合併
定義		合併は、自治体の廃置分合の一態様で、自治体の数の減少を伴うもの。 2以上の市町村の区域の全部若しくは一部をもって市町村を置くこと。	市町村の区域の全部若しくは一部を他の市町村に編入すること。
法人格		合併後、新しくできる合併市町村に新たに法人格が発生する。合併前にあった合併関係市町村の法人格は消滅する。	編入する市町村の法人格が継続する。全部が編入される市町村の法人格は消滅する。
合併市町村の名称		新たに定める。	通常は、編入する市町村の名称となる。
事務所の位置		新たに定める。	通常は、編入する市町村の事務所の位置となる。
市町村の長		消滅する合併関係市町村の長は失職する。	編入する市町村の長は変わらず、編入される市町村の長は失職する。
議会議員	原則	消滅する合併関係市町村の議会の議員は失職する。 新しくできる合併市町村の法定定数による設置選挙を行う。	編入する市町村の議会の議員は在任し、編入される市町村の議会の議員は失職する。 合併後の議員定数が増加する場合は増員選挙を行う。
	特例	次のいずれかによることができる。 設置選挙において、新設合併の特例定数（法定定数の2倍まで）とする。 消滅する合併関係市町村の議会の議員で新しくできる合併市町村の議会の議員の被選挙権を有することとなる者は最長2年間在任する。	次のいずれかによることができる。 増員選挙、さらにこれに続く最初の一般選挙において編入合併の特例定数とすることができる。 （増加分は編入される区域に配分） 編入される市町村の議会の議員で合併市町村の議会の議員の被選挙権を有することとなる者は編入する市町村の議会の議員の残任期間だけ在任する。この場合、更に最初の一般選挙において編入合併の特例定数を採ることができる。
農業委員会の委員	原則	消滅する合併関係市町村の委員（選挙による委員、選任による委員）は全て失職する。	編入する市町村の委員はそのまま在任し、編入される市町村の委員は全て失職する。
	特例	消滅する合併関係市町村の委員（選挙による委員に限る。）のうち、新しくできる合併市町村の農業委員会の委員の被選挙権を有することとなる者は10～80人の範囲で、1年以内の間、在任できる。	編入される市町村の委員（選挙による委員に限る。）のうち、合併市町村の農業委員会の委員の被選挙権を有することとなる者は、40人までの範囲で、編入する市町村の委員の残任期間在任できる。
特別職の職員		消滅する合併関係市町村の特別職の職員は全員失職する。（新たに選任する。）	編入する市町村の特別職の職員は在任し、編入される市町村の特別職の職員は全員失職する。
一般職の職員		消滅する合併関係市町村の職員は全員失職するが、全員新しくできる合併市町村に引き継がれる。	編入する市町村の職員は在任し、編入される市町村の職員は全員編入する市町村に引き継がれる。
条例・規則		消滅する合併関係市町村の条例・規則は全て失効する。（新たに制定する。）	編入する市町村の条例・規則を適用する。（合併に伴い必要な改正を行う。）
建設計画の策定		新しくできる合併市町村の全域に係る建設計画を策定する必要がある。	少なくとも編入される市町村の区域に係る建設計画を策定する必要がある。

農業委員会の委員については、合併市町村に一つの委員会を置くこととする場合

高松市・香川町の主なデータ等

項目	高松市	香川町	備考	
市・町制施行	明 23.2.15	昭 30.4.1		
市・町の花	つつじ	つつじ		
市・町の木	黒松	くすのき		
面積	194.34 平方 km	27.33 平方 km	平成 15 年 4 月 1 日現在	
人口	総人口	332,865 人	24,136 人	平成 12 年 10 月 1 日 国勢調査
	15 歳未満 (割合)	50,107 人 (15.1%)	3,735 人 (15.5%)	
	15 ~ 64 歳 (割合)	223,684 人 (67.2%)	16,430 人 (68.1%)	
	65 歳以上 (割合)	58,609 人 (17.6%)	3,968 人 (16.4%)	
世帯数	131,370 世帯	7,819 世帯		
人口密度 (1 平方 km)	1,712.9 人	883.1 人		
産業別就業人口	総計	164,563 人	12,612 人	
	第 1 次産業 (割合)	5,534 人 (3.4%)	701 人 (5.6%)	
	第 2 次産業 (割合)	34,862 人 (21.2%)	3,623 人 (28.7%)	
	第 3 次産業 (割合)	123,127 人 (74.8%)	8,225 人 (65.2%)	
	区分不能 (割合)	1,040 人 (0.6%)	63 人 (0.5%)	
財政力指数	0.870	0.573	平成 13 年度	
歳出決算額 (住民 1 人当たり)	115,905 百万円 (348 千円)	6,799 百万円 (274 千円)	平成 13 年度決算 (普通会計)	
議員数	40 人	18 人		
職員数	3,340 人	307 人	平成 15 年 4 月 1 日現在	

年齢 3 区分人口については、年齢不詳を除く。

高松市・香川町合併協議会設置の経緯

年 月 日	事 項
14年 8月 16日	香川町で協議会設置請求代表者から町長に対し、合併特例法に基づき高松市を合併対象市町村とする合併協議会設置の請求（合併協議会設置請求の住民発議）が行われる。 有効署名数：4,033名（有権者数の20.61%）
14年 8月 19日	香川町長から高松市長に対し、同合併協議会の設置について高松市議会に付議するか否かの意見照会が行われる。
14年 9月 25日	合併反対の陳情と香川町の存続を求める要望が、香川町議会で採択される。
14年 10月 23日	高松市長から香川町長に対し、住民発議による合併協議会設置を議会に付議する旨の回答を行う。
14年 12月 6日	高松市議会に、合併協議会設置議案が提案される。
14年 12月 16日	香川町議会に、合併協議会設置議案が提案される。 （合併特例法の規定により、町長の意見「設置の必要はない」旨を付す。）
14年 12月 19日	香川町議会が、合併協議会設置議案を否決する。
14年 12月 20日	高松市議会が、合併協議会設置議案を可決する。
15年 3月 21日	香川町で投票実施請求代表者から、高松市を合併対象市町村とする合併協議会設置協議についての住民投票の実施請求が、香川町選挙管理委員会に提出される。 有効署名数：5,362人（有権者数の27.07%）
15年 4月 13日	香川町で合併特例法に基づく合併協議会設置協議についての住民投票が実施される。（有権者数：19,513人 投票率：64.09%） 設置に賛成の得票数：6,136票 設置に反対の得票数：6,134票
15年 4月 21日	投票の結果の効力に関し、不服のある選挙人が香川町選挙管理委員会に異議を申し出る。
15年 5月 21日	香川町選挙管理委員会が、投票の結果の効力に関する異議の申出を棄却することを決定する。
15年 6月 10日	香川町選挙管理委員会の決定に不服のある選挙人が、香川県選挙管理委員会に審査を申し立てる。
15年 6月 18日	香川町議会が、合併協議会関係予算案を可決する。
15年 7月 9日	高松市議会が、合併協議会関係予算案を可決する。
15年 8月 8日	香川県選挙管理委員会が、投票の結果の効力に関する審査の申立てを棄却することを裁決する。 （点検審理の結果） 設置に賛成の得票数：6,182票 設置に反対の得票数：6,166票
15年 8月 26日	高松市長と香川町長が、合併協議会規約に関する協議書に調印する。
15年 9月 1日	高松市・香川町合併協議会が設置される。